

幼稚園・学校等における給食の安全性に関する陳情

(文教委員会付託)

受理番号 第55号

受理年月日 平成23年9月27日

付託年月日 平成23年9月30日

陳情者
.

陳情要旨 平成23年3月11日に発生した関東東北地方太平洋沖地震の影響で放射能事故を起こしている東京電力福島第一原子力発電所は、現在もなお広範囲に放射性物質を拡散させていることで、多くの人々が空気、食品、飲料水、土壌などの汚染具合を心配しております。

その結果、東北だけではなく、関東、東海までも放射能汚染地域とされ、全国の食品の安全性に疑問を抱いている人は数多く見受けられるのも事実です。

放射線は、妊婦、乳児、幼児など小さな子供達に多大なる影響を与える物質であると過去の学術データからも明白であります。

外部からの被曝も恐ろしいものですが、もっとも危惧されるのが空気や食品などから体内に取り込まれる内部被曝が危険であると専門家は警鐘を鳴らしています。

江戸川区は23区の中でも特に汚染度が高い地域と言われ、外部からの被曝を常に子供達は受けている事を踏まえた上で、内部被曝を少しでも減らせるよう幼稚園、学校等で出される給食はもっとも安全でなくてはならないと考えます。

NHKスペシャル「広がる放射能汚染」第2回(2011年7月3日より)当時の厚生労働副大臣によると「食品が全品検査出来る訳ではない。サンプリングであるから、基準値を超えた物がまったく流通してないと言う事を我々も確信出来る状態ではありません。」との発言がありました。

そのような状況からも当時の厚生労働副大臣の発言から3ヶ月経った今も、食品に対し全品検査出来ている可能性は誰もが立証出来る物ではありません。

先般の出来事を例に取って見ても汚染牛肉を江戸川区の小学校で給食として使用してしまった事を教訓に、江戸川区は子育て特別区として放射能対策にいち早く取り組み、子供達の安全と安心を与えられる区として、幼稚園及び学校給食に放射能汚染がない食材の使用が必須と考え、下記について強くご検討頂きたく陳情する次第であります。

記

- 1 食材の産地及び仕入先を公開すること
- 2 幼稚園、学校の給食を福島第一原子力発電所より離れた関西圏、九州、北海道の物又は安全性の確認が取れた海外の物を使用すること